

令和6年度第1回 聖籠町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

日 時	令和6年7月30日(火) 14:00~16:00
場 所	聖籠町役場3階 大会議室
出席委員	鷺見委員(会長)、伊藤委員、入山委員、笠井委員、小林委員、齋藤委員、佐藤委員、中林委員、中村委員、夏井委員、二宮委員、宮澤委員、渡邊委員
事務局	総合政策課:高橋課長、小林課長補佐、井上主任
関係課	総務課 大沼副参事、高橋生活環境課長、渡邊保健福祉課長、齋藤長寿支援課長、小野産業観光課長、佐藤子ども教育課長、須貝教育未来課長、宮澤社会教育課長、澁谷東港振興室長
次 第	1 開 会 2 委嘱状交付 3 町長あいさつ 4 委員及び事務局紹介 5 会長及び会長代理選任 6 議 事 (1) 会議の公開について (2) 第3期総合戦略の策定について (3) 第2期総合戦略に係る効果検証について 7 閉 会

会長及び会長代理選任

- 委員の互選により鷺見委員が会長に選任され、会長の指名により伊藤委員が代理者に定められた。

議事要旨

議事(1) 会議の公開について

- 事務局から「本会議の今後の審議を公開すべきと考えている」旨を説明
- 会 長 意見がないようであれば、事務局提案のとおり、この会議は原則公開としたい。ただし情報保護や、審議の障害になるようなケースが存在する場合は、非公開とすることとしたい。もしそういうことが生じれば、会長と事務局の方で判断をさせていただく。
(一同異議なし)

議事 (2) 第3期総合戦略の策定について

- 事務局から資料1「第3期聖籠町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定について」に沿って説明

委員 デジタル化への対応という話があったが、これは自治体、役場業務のデジタル化なのか、それとも住民サービスのデジタル化なのか、どちらの話か？

事務局 国のデジタル田舎国家構想においては、「デジタル実装」という表現が用いられるが、これは地域住民にメリットがある行政サービスのデジタル化を指している。本会議においても国の考え方に基づいて、デジタル実装により、地域住民にメリットが還元されるような施策を検討していきたい。

会長 これまでは、様々な問題の解決の手段が漠然としていたところを、デジタル技術を使ってやってみようということ、昨今国が提案してきている。あらゆる生活の場面でデジタルが浸透していくことを踏まえて、様々な問題解決をデジタルの力を借りてやってみよう、というのが今回の一つのテーマである。

議事 (3) 第2期総合戦略に係る効果検証について

- 事務局から資料2「第2期聖籠町まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る効果検証について」及び資料2別添「第2期聖籠町まち・ひと・しごと創生総合戦略実施計画・検証シート」に沿って説明

<基本目標1：しごとづくり>

委員 しごとづくりということだが、内容的には農業従事者を増やすことに重点が置かれているように感じた。若い人が聖籠町を出て、子育てを機に帰ってきたいという時に就ける仕事に限られていると、転居先の選択肢から外されてしまうように思う。

また、「新潟東港を核とした経済振興」について、東港の工業団地への誘致に成功した企業の業種や職種に偏りがいいのか、さきほどお伝えした仕事の選択肢が幅広くあるのかという観点から教えていただきたい。

東港振興室長 立地企業の規模拡大・未操業地への進出促進を図っているもので、企業誘致を積極的に行っているものではない。立地企業の業種は多岐にわたるものである。

会長 次期戦略の中で、若い人たちにとって働きやすい場所、魅力的な場所を目指す取組を町の方で検討していただきたい。

会長 「新規就農者確保対策事業」について、新規就農者が6人とあるが、

生産している作物の種類を教えてください。

また、「広域的観光周遊ルートの整備」について、観光周遊ルートを1つ作成し、現在は商談会資料として活用しているとのことだが、次のステップに向けた動きがあれば、補足説明をお願いしたい。

産業観光課長 2020年からの新規就農者が生産している作物の種類は、水稲や里芋、果樹など様々である。

KPIの周遊ルート1ルートについては、胎内市、新発田市、聖籠町で連携して作成したものである。それとは別に村上・新発田エリアの観光ルートを作っている。活用方法については、海外の方への紹介など、限定的な活用に留まっている。

<基本目標2：結婚・出産・子育て>

委員 「地域に愛着を持つグローバル人材育成」のKPI「中学生英検3級合格者」について、国の指標に合わせて「英検3級レベル以上の生徒数」への変更を今後検討していくとの説明があったが、これはハードルを下げる趣旨の変更なのか？

教育未来課長 現行のKPIの英語検定協会が実施する英語検定については、近年受験者・合格者ともに少ない状況である。そこで、現在中学校で全員が受けている英検IBAにて英検3級相当かを測ることができること、全国的にもその指標を活用していることを踏まえて、KPIを「英検3級レベル以上の生徒数」に変更する方向で検討している。

委員 同じ事業について、地域に愛着を持つことと、英語の教育の関連性についてはどのように整理しているか。

事務局 「地域に愛着を持つグローバル人材育成」は、町の最上位計画である総合計画での一つの目標となっている。まずは地域を知って、聖籠町に愛着・誇りをもってもらった上で世界に羽ばたいてもらいたい、という大きな目標があり、その手段として英語の教育を実施しているものである。

委員 「安心して子育てできる家族への応援」に関連して、児童クラブの実態について伺いたい。子供の人数に対して先生の配置人数は何名か。また、学年が上がるにつれて児童クラブを断られるという話を聞いたことがあるが、そのような事例はどの程度あるのか。

子ども教育課長 支援員の配置人数については、国の基準では子ども40人に対して2人が目安とされている。町では、小学校区ごとに3つのある児童クラブで、いずれも面積要件上90人程度が定員であるが、最低でも常勤4人、実際には概ね6人程度と少し手厚く配置している。これは、

落ち着きがない子やトラブルへの対応などを想定した配置である。

また児童クラブは、両親が働いている場合に限られるが、小学6年生までを対象としており、学年を上がることを理由に利用を断る事例については、当方では把握していない。利用人数は小学3、4年生までがピークで、高学年になるとスポーツなどで利用者はほとんどいない状況である。

委員 児童クラブの支援員に対して発達障がい研修は行っているか？

子ども教育課長 県主催の児童クラブの運営研修を受けてもらっているが、発達障がいに関する専門的な研修は行っていない。

委員 聖籠町では障がいの有無に関わらず、同じ環境で教育を受けるということを掲げて、児童クラブも同様の考え方で運営していると認識しており、それ自体はとても良いことだと感じている。

一方で、学校では障がいの有無などによりクラス分けされているものが、児童クラブでいきなり一緒の環境になるということで、障がいのある子どもから児童クラブに行きたくない、利用できないという声が聞かれる点は課題であると考えます。また、児童クラブの支援員にとっても対応の仕方が分からず苦慮されているのではないかと考えます。

それらへの対応として、児童クラブの支援員に対する発達障がいなどに係る専門的な研修の実施について、ご検討をお願いしたい。

子ども教育課長 ご指摘の研修の実施について、今後検討させていただきたい。

委員 「仕事と子育ての両立の応援」のKPI「待機児童数」について、目標・実績ともに0人とされているが、これは現時点での待機児童が0人ということか？

子ども教育課長 KPIの待機児童数については、毎年4月1日時点の状況であり、4月1日以降においては聖籠町でも預けたいタイミングで預けられない事例が一定数存在している。そのような事例に対しては、個別に相談を受け、企業型保育園のご案内や育休延長の可否の確認などを含めた調整を図っている。

委員 私の周りでは「仕事をしていなくても預けたい」という声が一定数ある。私立保育園の整備により、受け入れ可能な人数を増やすことはできないか？

子ども教育課長 仕事をしていなくてもずっと子どもを預けられるようにしてほしいとの要望については、現行制度上では対応が難しい。一時的なリフレッシュを目的としたものであれば、一時預かりとして、町では認定こども園で実施している。

委員 「そだちの家」の活用について、2022年から利用人数が大幅に増

加した要因を教えてください。

子ども教育課長 2022年度から子育て支援センター「すくすくサロンさくらんぼ」として運営を開始した。以前は当該センターを民営のハーモニーこども園で実施していたが、2022年度は育ちの家で週4日、2023年度以降は週5日実施する体制となり、それにより利用者が大幅に増えている。

<基本目標3：まちづくり>

委員 数値目標「社会増減数」は、2022年に7年ぶりに増加に転じているとの説明があったが、この要因は？

事務局 現時点では詳細な分析ができていない。第2回会議の議事「人口ビジョン」の中で、今ほどのご質問についてもご説明させていただきたい。